

Forest 群馬県森連時報 vol.506

【発行所】
群馬県森林組合連合会
前橋市上大島町182-20
TEL.027(261)0615(代)

【制作・印刷】
株式会社総合PR
前橋市元総社町936-4
TEL.027(253)8331(代)

INDEX

森林組合監事研修会 開催	1	令和5年度	
令和5年度		群馬県市町村森林業務支援研修 開催	6～7
森林組合森林整備事業担当者会議 開催	2	「緑の雇用」担い手確保支援事業修了	7
令和5年度		川場村役場庁舎(KAWABA BASE) 完成	8
第2回 森林組合林産・販売事業会議 開催	2～3	群馬県環境森林部 人事異動	9
令和6年度 第1回 森林組合職員研修 (デジタル作業日報・収支管理システム)	3～4	県森連 人事異動及び機構改正	10～12
ぐんま林業就業支援研修	4	あとがき	12
令和5年度			
人材育成・定着支援研修 開催	5～6		

森林組合監事研修会 開催

3月18日に、群馬ロイヤルホテルにおいて、各森林組合の監事の参加により「森林組合監事研修会」を開催した。

初めに県森連代表監事であり公認会計士の鴻田氏より、「お一人様経営の危険性」と題し、会計や経理を一人に任せきりになることによる不正発生のリスクについての説明のほか、近年の企業経営の粉飾決算の手法や不正事例について紹介があり、動機や機会があれば誰でも不正や不祥事を実行する可能性があるため、定期的なチェック体制の構築など、不正を見逃さない・働かさせない体制づくりの必要性について説明が行われた。



▲鴻田代表監事

次に全国森林組合連合会監査企画担当部長 岸田氏より、「系統を取り巻くリスクとコンプライアンス」と題し、監事の役割と責任から組合の健全経営にマイナスな影響を与える可能性のある様々なリスクについて説明があり、そのリスクへの対応策として、自



▲全森連 岸田担当部長

己評価シートの結果確認や全国の森林組合系統における不適正事案などを参考に、不正発生の可能性の高いものや対策の優先的な対応認識もち、効果的な監事監査の実施を呼びかけた。

最後に群馬県林業振興課鈴木技師より、「森林組合常例検査の主な着眼点と指摘事項の改善について」と題し、常例検査についての目的や流れ、検査内容や過去の指摘事項等の説明と、林野庁からの総合的な監督指針による監事の職務と監事監査の着眼点について説明が行われた。



▲県林業振興課 鈴木氏



▲監事研修会

令和5年度 森林組合森林整備事業担当者会議 開催

令和6年2月28日(水) 県内森林組合の森林整備事業担当者(31名参加)を対象とした標記会議を群馬県庁 2F ビジターセンターにおいて開催した。内容は、(1) 森林ゾーニングの導入について、(2) 皆伐再造林の推進について、(3) ぐんま緑の県民基金事業について。令和6年度の事業実施に影響することから活発な質疑応答があった。

◆ 森林ゾーニングの導入について

群馬県 林政課 林業改革推進係の安藏係長から「群馬県森林・林業基本計画2021-2030」を達成するために令和6年3月に森林ゾーニングの区域を決定したい、については設定に関して意見を聞きたいとの前置きがあり、設定基準・イメージ図・ゾーニングと各種補助事業の関係性等が示された。

質問には「管内に優良な森林資源は豊富にあるものの地形が急峻なので80%以上が環境保全林に分類される。資源循環林でないと補助金は出ないのか、出るにしても補助事業の優先順位が下がるのか?」といった切実なものもあった。

今後、各種データの収集を行いゾーニングや運用の見直しをしていくとのことなので、森林所有者・林業事業者等関係者が納得できるものになることを期待したい。

◆ 皆伐再造林の推進について

群馬県 林政課 森林整備係の霜田補佐から「花粉症対策の概要」や「苗木の需要と供給」について説明があり、苗木の供給側からとして県森連 本木購買課長から情報提供があった。



▲ 県林政課 安藏係長



▲ 県林政課 霜田補佐

◆ ぐんま緑の県民基金事業について

「みんなの森をみんなで守ろう」をキャッチフレーズとした「ぐんま緑の県民税」は令和6年4月から第Ⅲ期がスタートする。

群馬県 林政課 政策企画係の岩下係長からぐんま緑の県民基金事業について説明があった。基本方針は第Ⅱ期を継続し、未整備人工林の整備目標の達成に向けて取組を推進することとしている。今回の見直しの方向性として、新たな森林ゾーニングの導入に対応した対象森林や施業方法の検討、補助単価の見直し、制度の認知度の更なる向上などが示された。

質問や要望は、施業方法・事業運用の疑問や見直し案、設計と作業の乖離など多岐にわたった。

森林組合としては速やかな事業実施はもとより、県に現場の実情を知らせることによってより良い事業になり、早期に目標が達成されるように寄与していきたい。



▲ 県林政課 岩下係長



▲ 森林整備事業担当者会議

令和5年度 第2回 森林組合林産・販売事業会議開催

令和6年3月22日に県森連会議室において、県内森林組合の林産・販売事業担当者等を対象に「林産・販売事業会議」を開催した。

冒頭の県森連鈴木専務の挨拶では、新系統運動J Forest

群馬県森林組合2030ビジョンにおける、「循環型林業の確立と系統の木材販売力の強化」をするために、原木共同販売体制の構築と事業連携の推進に努めていただきたい。また、木材需要の現況については、木材需要の多くを占め

る住宅着工の低迷が長期化し、年明けから国産材原木市場の相場は、弱基調に転じておる一方、素材を伐採・搬出する生産業者では、概して人手不足に伴う人件費増、重機やトラックの燃料費増に見舞われている。個別製材工場等の受入状況等をタイムリーに情報共有いただき、各森林組合での生産計画やその他森林整備事業等との調整に活かしていただいと述べた。

会議ではまず、県森連木材部より、令和5年度の販売事業各部門(前橋共販所、協定直送販売、桐生木材ヤード、麻生木材ヤード、前橋バイオマス燃料)毎の取扱実績と渋川県産材センターの加工事業実績と、渋川県産材センターの製品および協定直送販売(素材)の取引先個別の直近の需要状況や今後の見通しについて説明が行われた。その後、各森林組合より今年度素材生産実績の報告と、次年度の具



▲ 県森連 木材部による説明

体的事業実践見込等が報告された。

続いて、群馬県 林業振興課 県産木材係 主任小林氏より『ぐんまの木製品』登録制度について、「登録された製品と取扱事業者を県が公表することにより、消費者が県産木材製品を選択しやすい環境を整備する」旨の説明を行った。

県森連では、今後も森林組合系統での情報共有を密にし、系統運動の進捗管理や素材生産量増大を目指して行きたいと考えている。



▲ 林産販売担当者会議

令和6年度 第1回 森林組合職員研修 (デジタル作業日報・収支管理システム)

県森連では「JFOREST群馬県ビジョン2030」に則ってスマート林業(林業デジタル化)の先駆的な実践に努め「スマート生産販売管理(木材SCM)システム」を数年前から運用してきた。さらに木材SCMシステムと連動する「業務日報・事業収支管理支援システム」を令和4年度に開発し導入している。このシステムにより森林組合の事業収支管理の効率化と精度向上が期待される。

操作手順は、まず各森林組合の[施業現場情報]や[勘定科目]および[事業名]、各現場担当職員の[人件費]や[林業機械経費]等をマスタ登録する。次に各現場担当職員がシステムにログインされ、日々の[業務日報](施業現場、作業工程、作業人工、利用機械等)を入力する。その結果、施業現場ごとの[収支管理]や勘定科目ごとの[月次事業費振替集計表]が自動作成されるものである。

このシステムは林産事業のみならず保育事業はじめ森林整備事業全般や加工事業まで、直接費として現場担当職員人件費を計上する事業(科目)全ての管理が可能となる。また、木材SCMシステムと連動しているため、特に素材生産事業現場にかかる情報入力、当クラウドシステム活用による生産・販売業務管理には必須となっている。



▲ クラウドシステム研修



▲ システム演習

令和6年4月18日(木) 県森連研修室において標記研修を開催した。森林組合の関心が高く、参加者は27名。実際にパソコンを操作してもらうことから午前と午後の2回に分けて実施した。県森連山田指導部長のシステム活用の目的と意義の説明の後、



▲県森連 高橋総務部長

高橋総務部長により各項目・因子の説明がありパソコンの実地操作へと移った。

この研修を契機として、できる森林組合から「業務日報・事業収支管理支援システム」導入に取り組み、最終的には全ての森林組合で導入していただきたいと考えている。

ぐんま林業就業支援研修

去る1月22日から2月2日の10日間、ぐんま林業就業支援研修が実施された。参加者は7名であった。

ぐんま林業就業支援研修は、県内で林業就業を希望する人を対象とした研修である。平成23年度から30年度まではぐんま林業学校(林業基礎研修)、令和元年度からはぐんま林業就業支援研修という事業名で実施している。例年夏と冬の2回実施するが、今年度は冬1回の開催となった。

研修では、チェーンソーと刈払機の資格を取得することができる他、シミュレーターやVRを使用した林業の疑似体験、伐倒練習機でのチェーンソー練習、森林組合や林業会社での3日間の就業体験等、林業について様々な体験ができる。また最終日にはぐんま林業就業支援研修を経て林業に就業した方を相談員として招き、意見交換会を行う。

研修中、参加者からはチェーンソー作業の大変さや難しさ、チェーンソー作業時に着用する靴の重さなどについて感想があり、林業について少しでも実感いただけたようであった。また3日間の就業体験ではチェーンソー伐倒を行った参加者も多く、中には傾斜地に苦勞した方もいたようであった。

最終日の意見交換会では相談員より、林業へ就業した当初は体力的に非常に大変であったこと、他業界と比べ給与が良くないこと等、厳しい話もあったが、体力・技術面で大変であるからこそ得られる達成感や、野外仕事のため残業が無いこと、休みが取りやすいこと等、良い話もあった。

林業について厳しさも含め様々なことを学んでもらう研修

であったが、研修終了後3名が林業へ就業を希望し、その内1名は県内の林業会社へ就業した。就業した方の林業現場での活躍を期待したい。



▲チェーンソー実習



▲意見交換会

高性能林業機械 レンタルします

● レンタルのニッケン



ザウルロボ



フォワード



プロセッサ



グラブ



ハーベスタ

令和5年度 人材育成・定着支援研修 開催

例年開催となっている人材育成・定着支援研修が今年度も『経営者・管理職研修』、『指導者養成研修』の2種で開催された。

林業の担い手である新規就業者や若手現場技能者が、能力を最大限に発揮し、やりがいや将来への期待をもって働くためには、実践的な技術の習得が重要となっている。同時に、県内で技術指導を行う者や雇用主・雇用管理者が、効果的な指導方法や研修の役割を理解することも、若手技能者の能力の発揮には必須である。こうしたことから、技術指導を行う者や経営者・管理者を対象に研修を開催し、人材育成に関するスキルを学んで意識改革することで、組織全体で将来を担う林業従事者の育成・定着を図り、以て林業を支える人材の育成・定着に資する研修内容となっている。またWoodsmen Workshop LLC代表の水野雅夫氏を講師としてお迎えするのも今回で7年目を迎えた。



▲水野講師

【経営者・管理職研修】

令和6年2月13日に、県内の林業経営体の中から11事業体13名で群馬県勤労福祉センターにて県林業振興課主催で開催された。

『安全は何番目?』と出してOJTの意義と管理者の役割認識について、県内の労災現況や労災減少に向けた対策方法、経営者の安全衛生に対する意識改善の必要性などの内容が講演された。



▲経営者研修の講義

【指導者養成研修】

令和6年2月14日～16日、2月28日～3月1日の計6日間に渡って、群馬県立農林大学校研修棟及び伐倒練習機建屋にて開催された。今年度の受講者については令和3年度から5年度にかけて開催された「伐倒技術者のCheck & Clinic研修」修了者を対象としており、4名が受講された。今回の研修も、講師である水野氏が開発企画に携わり考案された『伐倒練習機 Felling Trainer MTW-01』を活用して研修が実施された。6日間の研修内容は以下の通りである。

《研修1日目》

「労災・人材育成・新人教育について」をテーマに講師から講義があり、労災に関する動画を見ながらリスクアセスメント実施、また、新規就業者を対象としたチェーンソー伐倒の際の「受け口と追い口による伐倒の図解説明」などが行われた。

《研修2日目》

ワークショップ『作業の分解と再構築』(切り捨て間伐編)がスタートした。

このワークショップは切り捨て間伐の一連の作業工程を個人毎に1つ1つ詳細に分解し、その分解された考えや動作を時系列に並び替え、研修生全員の合意形成を図り1つにまとめてマニュアル化していく作業である。

このワークショップの目的は、日頃、何気なく作業を行っている作業を事細かく明確にし、このことにより明らかになった危険行動や作業効率や手順を意識的に把握しマニュアル化することにある。このマニュアル化された一連の作業は、これまで行われてきた場当たりの指導とは異なり、誰もが同様に指導することが可能となる。



▲指導者研修の実習(指導者研修)

《研修3日目》

「青年の主張」と出して各受講者から、これまでの林業人生やこれからの新人指導などについて、各々の思いについて発表が行われた。また、前日からのワークショップの続きが行われ、受講者からは積極的な意見交換がされ順調に進められていった。

《研修4日目》

午前には伐倒練習機を活用した実習が行われ、受講者各々の技術レベルを確認し、相互に改善点などを指摘し合う内容であった。また午後には研修室に戻り、午前中で明らかになった改善点を洗い出し、解決方法を導く作業が行われた。

《研修5日目》

多野東部森林組合ご協力のもと、林業経験が少ない新人をお招きし、受講者が実践的指導を行うロールプレイングが行われた。伐倒の際の受け口作成作業を新人に行ってもらい、チェーンソーの作業姿勢から立ち位置、一つ一つの動作など改善点を指摘し、安全かつ効率的な作業ができるように話し合われた。

《研修最終日》

ワークショップの最終仕上げとして作業が進められ、チェーンソーワークである受け口・追い口作成作業を除いた切り捨て間伐一連の流れを模造紙内で表現することができた。さらに個々に抽出された作業での重要度を研修生でランキング付けし、これらが行われたときと行われなかったときのメリットとデメリットを考え、最終的には新人へのOJT指導の必要性や重大性など話し合われて研修は終了した。



▲4WSの様子



▲淀川講師

の活用事例として埼玉県の淀川氏から、飯能市で取り組んでいる様々な事業のご紹介などをしていただいた。また高崎市農林課からは森林経営管理制度の取組事例や森林環境税の用途などの紹介をしていただいた。

午後からは、2つの班に分かれて受講者による「森林経営管理制度を推進するための課題と解決策」と題してグループ討議が行われた。それぞれの班からは「人材不足・育成不足」、「森林基礎情報データ不足」が課題として取り上げられ、各々の班でその解決策を導くため、講師の間明氏と淀川氏の助言を受けつつ、方向性を見出すため討議が行われた。討議後はそれぞれの班から話し合われた経緯に触れながら発表が行われた。また、発表を受けて講師からは講評をいただき、「実際に当事者同士が集まって、悩みを吐き出し、共有する場となった。そして自ら課題を認識し、このような活発な意見がだされた。ぜ

ひ市町村が次の一步を踏み出すために、今回のような研修の開催継続が大切です。」とあった。

それぞれの市町村の課題は様々であるが、本研修で基礎知識を学び、相互交流を図りつつ他の市町村の情報を共有することができた研修になったのではないかと思います。森林経営管理制度推進の一助になったことを期待したい。



▲グループ討議

「緑の雇用」担い手確保支援事業修了

令和5年度「緑の雇用」担い手確保支援事業は32林業経営体のフォレストワーカー（FW）1年目17名、2年目13名、3年目18名、フォレストリーダー（FL）研修14名、フォレストマネージャー（FM）研修5名が研修に参加した。フォレストワーカー（FW）集合研修は、6月1日に1年目研修の開講式から始まり、令和6年1月12日の3年目研修の実施をもって、FW1～3年目集合研修の全日程を終了した。3年目修了者についてはFWの大臣登録申請を行った。また、フォレストリーダー（FL）集合研修は今年度も自県開催となり7月11日から11月25日まで期間に16日間の集合研修を実施、フォレストマネージャー（FM）研修は、web形式の研修等を10日間実施し、それぞれの研修修了者も既に大臣登録申請を行っており、今後それぞれの経営体での活躍が期待される。

なお、県内のFW研修生の労働災害の発生状況は令和4年度の4件に比べ、7件と大幅に増加した。伐倒が原因となる災害に加え、転倒・滑落の歩行関連の災害も増加していることから、「緑の雇用」事業 安全指導方針の周知徹底を図っていただくように、監督検査や集合研修等でも安全指導を行い1件でも労働災害が減るよう努めていきたい。

令和6年度事業については、34林業経営体が実施し、FW1年目21名、2年目14名、3年目12名、フォレストリーダー（FL）研修19名、フォレストマネージャー（FM）研修3名の予備登録申請をした。なお、令和5年度補正では4～5月にトライアル（TR）雇用研修を実施し、引き続き令和6年度事業で6月から8ヶ月間のFW1～3年目研修を実施する。また、FL研修については、7月から「安全衛生管理」、「現場作業管理」、「チームワークの形成」、「緑の雇用」事業におけるOJT指導等の指導力強化のためのカリキュラムで実施する。なお、FM研修は例年通りブロック開催となる。



▲集合研修

令和5年度 群馬県市町村森林業務支援研修 開催

本研修は森林経営管理制度において、市町村が円滑かつ適正な制度の運用を図るため、市町村の林務担当職員等を対象に、森林・林業に係る知識、関係制度等への理解を深める

研修を開催し、市町村の業務実施体制強化を支援することを目的とし、令和6年1月25日～26日の2日間に渡って、群馬県社会福祉総合センターにて県林政課主催で開催された。

県内の8市町村10名が受講者として参加し、講師には県林政課、高崎市農林課のほか、県外から石川県林業公社の地域林政アドバイザー間明弘光氏、埼玉県飯能市森林づくり推進課主査の淀川茂氏に講義いただいた。

初日には県林政課より森林経営管理制度の実務上のポイントや、森林経営計画についての講義、また間明氏による森林経営管理制度の取組事例として石川県白山市の実践事例をご紹介いただいた。

2日目は森林環境譲与税



▲間明講師



▲講義

川場村役場庁舎(KAWABA BASE) 完成

昨年末に、川場村役場の新庁舎が完成した。役場庁舎を中心に交流ホール・むらの学習館・エネルギーセンター・防災倉庫を併設し、各施設とは連絡ブリッジで結ばれている。これからの村の中心となるという意味を込めて愛称を「川場ベース」と名付けられた。

新庁舎は2階建てで、全面ガラス張りにより1階ロビーは吹き抜けて開放的な空間となっている。また、地元の豊富な森林

資源を活用し、構造材や外壁、床材などに地場産木材をふんだんに使用しているほか、冷暖房には間伐材の木質チップを燃料としたボイラーや太陽光発電などの再生可能エネルギーを導入している。

この構造材等には、地元産材として利根沼田森林組合のSGEC認証森林から伐出した原木を利用するなど、SGEC森林認証の取組みとSDGsの実践に繋がっている。



▲川場ベース全景



▲木材をふんだんに用いた2階



▲ロビー



▲交流ホール

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsの木製ピンバッジご購入のご相談をお受けしております

SDGs (持続可能な開発目標) とは?
SDGsとは、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の頭文字から生まれた造語です。2015年の国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な開発目標として17のゴールと169のターゲットから構成されています。

群馬県環境森林部 人事異動

群馬県では、4月1日付人事異動を発表した。

環境森林部森林局各課及び各環境森林事務所の主な人事異動は以下の通り(敬称略、カッコ内は前職)

- 前川 尚子 環境森林部長(地域創生部スポーツ局長)
- 黒沢 勉 森林局長(林政課長)
- 藤城 和義 環境政策課長(廃棄物・リサイクル課長)
- 畠中 一彦 環境保全課長(中部環境事務所長)
- 松本 潔志 廃棄物・リサイクル課長(廃棄物・リサイクル課不法投棄主監)
- 白田 栄慈 自然環境課長(自然環境課尾瀬保全推進室長)
- 木村 和之 自然環境課自然公園活性化推進室長(知事戦略部グリーンイノベーション推進室次長)
- 吉田 利佳 自然環境課尾瀬保全推進室長(自然環境課次長)
- 石丸 順 林政課長(森林保全課長)
- 折田 知徳 森林保全課長(吾妻環境森林事務所長)
- 清水 悟 西部環境森林事務所長(富岡森林事務所長)
- 小野里 光 富岡森林事務所長(鳥獣被害対策支援センター所長)
- 角田 智 吾妻環境森林事務所長(桐生森林事務所次長)
- 小野里 直樹 利根沼田環境森林事務所長(環境政策課次長)

◆森林組合系統の指導担当である林業振興課 担い手対策室 経営強化係の皆さんです。

- 室長 竹内 忠義
- 係長 菊池 孝典
- 副主幹 関 哲郎(渋川森林事務所)
- 主任 今井 寛(吾妻環境森林事務所)

林業信用保証のご案内

- 林業・木材産業を営む方(注1)であれば、どなたでもご利用が可能(注2)です。
- 保証料率は財務内容により、年0.15%から1.80%が適用されます。
- 仕入れや人件費の支払い、林業機械購入等の資金調達にご利用いただけます。
- 都道府県が無利子や低利で貸し付ける「制度資金」への保証も可能です。

詳しくはこちらへ

独立行政法人農林漁業信用基金
林業信用保証管理部 TEL. 03-3434-7825
<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html>

注1 造林・育林、素材生産、木材・木製品製造、林業種苗生産、薪炭生産、きのこ生産、木材卸売、木材製品利用が対象です。
注2 ご利用には審査があります。

県森連 人事異動及び機構改正

県森連人事異動 県森連の人事異動が4月1日に次の通り発令となった。(敬称略)

氏名	役職	前役職	
松嶋 弘幸	森林整備部技監	森林整備部調査設計第二課長	昇任
高橋 修	木材部長 兼 環境製品課長	木材部渋川県産材センター所長	昇任
北田 知洋	木材部販売課販売係 係長 兼 木材共販所 係長	木材部販売課木材共販所主任	昇任
土屋 昶明	森林整備部調査設計課 調査設計係長	森林整備部調査設計第一課 調査設計第一係 主任	昇任
牛口 学	木材部環境製品課 渋川県産材センター所長	木材部渋川県産材センター主任	昇任
新井 翠	指導部森林経営管理室 主任 兼 森林整備部調査設計課調査設計係	森林整備部調査設計第一課 調査設計第一係 技師	昇任
竹内 健二	木材部環境製品課 渋川県産材センター主任	木材部渋川県産材センター副主任	昇任
青山 渡	木材部環境製品課 環境製品係 主任	木材部渋川県産材センター副主任	昇任
菊池 正基	森林整備部調査設計課 課長 兼 指導部森林経営管理室経営管理係	森林整備部調査設計第三課 課長 兼 調査設計第三係 係長	異動
松本 哲也	森林整備部調査設計課 調査設計係主任 兼 指導部森林経営管理室経営管理係	森林整備部調査設計第三課 調査設計第三係 主任	異動
川越 奨太	森林整備部調査設計課 調査設計係技師 兼 指導部森林経営管理室経営管理係	森林整備部調査設計第二課 調査設計第二係 技師	異動
狩野 真美江	指導部森林経営管理室経営管理係 参与 兼 総務部総務課会計係	総務部総務課会計係 参与	異動
加藤 和正	木材部環境製品課 環境製品係 技士	木材部渋川県産材センター 技士	異動
竹沢 響	木材部環境製品課 渋川県産材センター 技師	木材部販売課販売係技師 兼 国産材加工センター 技師	異動
山下 聖子	木材部環境製品課 渋川県産材センター 主任	木材部渋川県産材センター 主任	異動

氏名	役職	前役職	
武藤 清久	木材部環境製品課 渋川県産材センター 技士	木材部渋川県産材センター 技士	異動
池田 孝男	木材部環境製品課 渋川県産材センター 技士	木材部渋川県産材センター 技士	異動
今井 達也	木材部環境製品課 渋川県産材センター 技士	木材部渋川県産材センター 技士	異動
長嶋 祐介	木材部環境製品課 渋川県産材センター 技士	木材部渋川県産材センター 技士	異動
戸丸 卓也	木材部環境製品課 渋川県産材センター 技士	木材部渋川県産材センター 技士	異動
高橋 丈男	木材部環境製品課 環境製品係 参与	木材部販売課販売係参与	異動
大川原 賢司	木材部環境製品課 渋川県産材センター 技士		新採用
深澤 政幸	木材部環境製品課 渋川県産材センター 技士		新採用

○技監 部長相当職で部業務にかかる技術的事項を統括する役職

令和6年1月31日 定年退職・継続雇用職員

氏名	役職	前役職
梶川 巧人	指導部 指導課 担い手・安全対策係 参与	指導部 指導課 課長代理

令和6年2月 1日 採用 職員

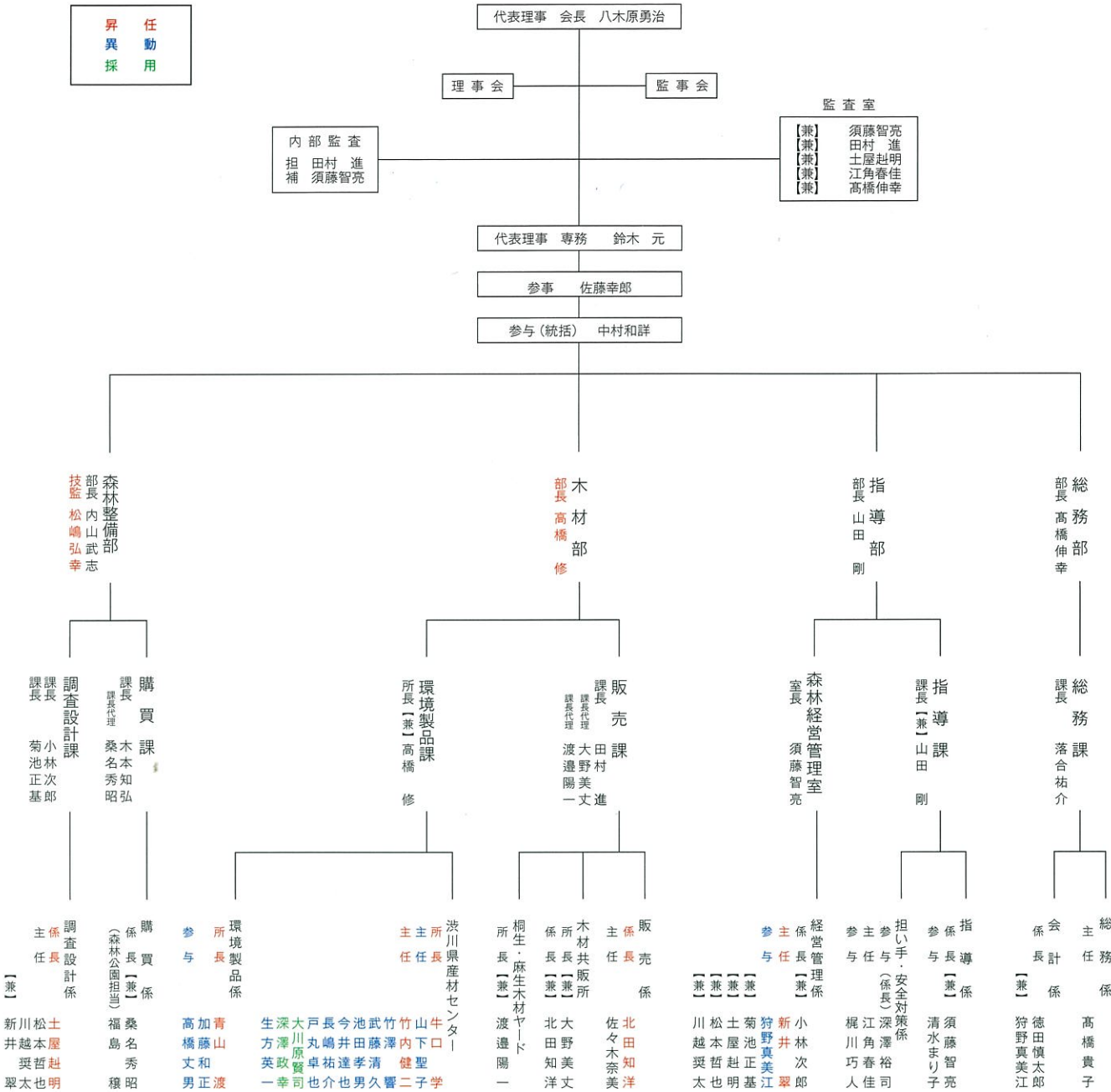
氏名	役職	採用年月日
深澤 裕司	指導部 指導課 担い手・安全対策係 参与(係長)	令和6年2月1日

令和5年度 退職職員

氏名	役職	退職年月日
鈴木 克志	木材部 部長 【兼】環境製品課 課長	令和6年2月29日
安吉 裕治	森林整備部 調査設計第三課 調査設計第三係係長 兼 指導部 森林経営管理室経営管理係係長	令和6年3月31日

運営機構図及び役職員の配置状況

令和6年4月1日現在



あとがき

皆さん、ゴールデンウィークはどう過ごされましたか。

私のゴールデンウィークの大半は、10年以上続けている学童野球の指導者として、県内あちこちの大会へ遠征するなど野球三昧となりました。こうした中、唯一のリフレッシュと言えば、東京ドームへのプロ野球観戦と、連休最終日に趣味のゴルフができたなど、とても充実した連休でした。

さて、今年は隔年で開催されるJLC（日本伐木チャンピオンシップ）が、6月に青森県のモヤヒルズで行われます。

群馬県内の森林組合からは、桐生広域と下仁田町から5名の選手が出場します。日頃の仕事で培った、チェーンソー技術や安全操作などを思う存分に発揮していただきたいと思います。

今年の夏は梅雨が長く、その後は猛暑の予報となっておりますので、体調を崩さないようお気を付けてください。



(山田)